

## 「雲林寺」猫好きに愛され地域の宝に

山口県萩市と言えば「萩・津和野」のくくりで全国的に知られる観光地。修学旅行などで訪れた方も多いはず。だが、萩市吉部上にある雲林寺はどうだろうか。市街地から車で約30分の距離にある山あいの小さな寺が今、猫好きの聖地として注目を集めている。

「猫寺」の通称を持つ雲林寺。猫をモチーフにした絵馬やおみくじ、迷い猫が家に帰るようお願い「帰猫符(きみょうふ)」を販売するほか、境内に大小600体もの猫の置物を並べる。特に木彫りの猫のかぶり物は参拝者が頭にかぶった画像をインスタグラムに投稿するなど好評だ。去年は約1万2千人が訪れ、このうち海外からは約300人。香港や台湾、タイ、韓国、米国、スペインなど約20カ国・地域と幅広い。

もともと主人の後を追って絶命した忠義の猫を供養したという江戸時代の逸話にゆかりのある寺ではあるが、これだけ猫色満載になったのは1996年に住職になった角田慈成さん(49)の尽力のたまもの。身内の形見分けの招き猫から始まった猫グッズコレクションなどさまざまな縁が重なったといい、空き寺だったこの場所に多くの人を訪れてほしいとの願いを込める。約5年前から台湾や香港の参拝客を迎えるようになり、忠猫の逸話を日・英・繁体中文・ハングルの4カ国語で紹介した漫画を配布するほか、手作りの多言語ポップを境内に貼って対応。寺のフェイスブックで海外に情報発信する一方、海外からの参拝者が自身のホームページやSNSで紹介してくれるため人気を呼んでいる。山口県も台湾での旅行博に木彫りのかぶり物を持参するなどPRに努める。

さて、かく言う私だが数年前まで雲林寺の名前すら知らなかった。そうそう、萩市のお隣・長門市にある元乃隅神社も123基の朱色の鳥居が連なる景観が海外メディアに取り上げられて大ブレイクするまでは県内でも知る人ぞ知る存在だった。まさに灯台下暗し。世界に通用する地域の宝は、どこに眠っているか分からない。

山口新聞社 東京支社長 石田 晋作



さまざまな猫の置物が並ぶ雲林寺。住職のコレクションだけでなく、奉納されたものも多い